

瑞浪、幌延の第1段階 (地上からの調査研究段階) の成果を取りまとめ、平成18年度中に報告書として公表する。

<目的・位置づけ>

- ・調査研究の達成度と今後の課題の明確化
- ・第2段階以降の調査研究の方向性の具体化
- ・地層処分技術に係る知識基盤としての整備・体系化
- ・処分事業における概要調査及び精密調査への反映
- ・安全規制に係る指針類の整備への活用

<取りまとめの要件>

- ・第1段階の目標 (①, ②等) に対して, 成果と課題が適切にまとめられていること
 - ①地上からの調査研究による地質環境モデルの構築, および坑道掘削前の深部地質環境の状態の把握
 - ②地下施設 (研究坑道) の詳細設計および施工計画の策定
- ・第2段階以降の調査研究の課題 (モデルの検証方法等) が示されていること
- ・第1段階で取得したデータ, 一連の調査・解析・評価の方法論および知見 (ノウハウや失敗例を含む) が整備されていること

1

<瑞浪、幌延の特徴に応じた取りまとめ>

- ◎瑞浪と幌延では, 社会的制約などにより, 調査研究の進め方が異なっている。
(ただし, 調査研究を進める上での考え方や調査研究の基本的な内容は, 双方とも同じ)
- ◎幌延では「地層処分研究開発」も合わせて実施している。
(瑞浪は「深地層の科学的研究」のみ)

	超深地層研究所計画 (瑞浪超深地層研究所)	幌延深地層研究計画 (幌延深地層研究所)
場所	瑞浪市の市有地を賃貸借 (given)	幌延町内から段階的に選定(selection)
プロセス・アプローチ	調査研究開始当初より, 研究用地 (約7.5ha) を含むサイトスケール (約2 km四方) での調査	町内に研究所設置候補4区域を設定 ↓ うち2区域を選定し調査 ↓ 研究所設置地区 (約3km四方) を選定 ↓ 研究用地 (約19ha) を取得
	同一範囲 (サイトスケール) での調査ステップ (繰り返しアプローチ) 広域地下水流動研究 (約10 km四方) を別途実施	研究所設置地区において主たる調査研究を展開

2

<取りまとめ報告書の内容>

H17取りまとめをベースとして、その後に得られた成果と合わせて包括的に取りまとめる。

<目次案 (大項目のみ) >

◎超深地層研究所計画 (瑞浪)

1. 超深地層研究所計画の概要
2. 超深地層研究所計画・第1段階調査研究の概要
3. 深部地質環境の調査・解析・評価技術の基盤の整備
4. 深地層における工学技術の基盤の整備

◎幌延深地層研究計画

「深地層の科学的研究」(分冊)

1. 幌延深地層研究計画の概要
2. 幌延深地層研究計画・第1段階調査研究の概要
3. 研究所設置地区および研究所設置場所の選定
4. 研究所設置地区およびその周辺における地上からの調査研究
5. 深地層における工学技術の基礎の開発
6. 地下施設建設に伴う周辺環境への影響調査

「地層処分研究開発」(分冊)

1. 処分技術の信頼性向上
2. 安全評価手法の高度化－安全評価手法の適用性確認

<取りまとめのスケジュール>

- ・ ～9月まで: 第1ドラフト作成
- ・ 10月～11月: 社内におけるレビュー
- ・ 11月～12月: 第1ドラフト修正／第2ドラフト作成
- ・ 1月～ 2月: 国内専門家によるレビュー (URL検討委員会等に依頼)
- ・ 2月～ 3月: 最終版完成／印刷・公開

<取りまとめ体制>

	超深地層研究所計画 (瑞浪)	幌延深地層研究計画
作成者名	東濃地科学研究ユニット, 東濃地科学センターの連名	幌延深地層研究ユニット, 地層処分基盤研究開発ユニット, 幌延深地層研究センターの連名
責任者	東濃地科学研究ユニット長	幌延深地層研究ユニット長 地層処分基盤研究開発ユニット長 (分冊「地層処分研究開発」)
作業実施 ／調整	結晶質岩地質環境研究グループ 結晶質岩工学技術開発グループ 施設建設課	堆積岩地質環境研究グループ, 堆積岩工学技術開発グループ, 施設建設課, システム性能研究グループ, 核種移行研究グループ, ニアフィールド研究グループ